



2026 年 7 月 21 日

各 位

会社名 神戸天然物化学株式会社
代表者名 代表取締役社長 真岡宅哉
(コード番号 6568 東証グロース)
問合せ先 専務取締役 管理本部長 関正博
(TEL. 078-955-9900)

2027 年 3 月期 通期業績予想（第 1 四半期）の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2026 年 5 月 14 日に公表いたしました 2027 年 3 月期第 1 四半期（2026 年 4 月 1 日～2026 年 6 月 30 日）の業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2027 年 3 月期の業績予想の修正(2026 年 4 月 1 日～2026 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	2,000	95	90	63	8.14
今回修正予想 (B)	2,118	51	48	41	5.30
増減額 (B - A)	+118	▲43	▲41	▲21	
増減率 (%)	+5.9	▲46.0	▲46.6	▲34.9	
(ご参考) 前期実績 (2026 年 3 月期 第 1 四半期)	1,694	▲9	▲11	▲11	▲1.46

2. 修正の理由

2026 年 5 月 14 日に公表いたしました 2027 年 3 月期第 1 四半期累計期間（2026 年 4 月 1 日～2026 年 6 月 30 日）の業績予想につきましては、受注状況に加え顧客からの製造フォーキャスト、外部環境等を踏まえ、量産ステージおよび開発ステージの案件を中心に販売計画を作成しておりました。

当第1四半期累計期間の売上高は、機能材料分野における半導体関連材料などの受注が好調に推移し、全体として当初予想を上回る見込みとなりました。

一方、損益面におきましては、期初予想を下回る見通しとなりました。主な要因は次の2点です。

- ① 中長期的な成長に向けて獲得した開発ステージ案件において、量産ステージへの移行プロセスに伴う特有のリスク（製造手順の検証・改良において、当初想定を上回る作業時間を要したことなど）が顕在化し、原価上昇の要因となったこと
- ② 医薬分野における第1四半期の操業度低下が原価上昇の要因となったこと

これらの結果、当第1四半期累計期間において評価損97百万円を計上し、売上原価が上昇しました。

戦略的な案件獲得に伴う影響は、今後の事業拡大に向けた不可欠なプロセスであると考えております。引き続き持続的な成長の実現に向け、中長期的な案件の継続獲得に努めてまいります。

以上の要因を総合的に勘案した結果、2027年3月期通期業績（第1四半期）予想を修正することといたしました。

※本資料に記載されている業績予想に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により異なる場合があります。

以 上